

【前回のテーマは「ネガティブメンテナンスと ポジティブメンテナンス」、今回は「ポジティ ブメンテナンスと自立」です。】

MK

前回"人間存在というのは、何物にも依存せず、自己のみで自己を規定できる得る"という話になりました。

AH

ええ。究極的にということで、それに向かう 方向性として具体的処方であるポジティブメン テナンスを私は自身の施術のゴールとしている わけです。

MK

なるほど。究極的な自立・自律こそ真の健康 である、と。

AH

そうですね。

現代社会におけるコンシューマーインサイト は広義に言えばネガティブが根底にあると思い ますが、当然施術を受けるという事も根本には ネガティブがあります。

わかりやすく言えば「痛みの予防」とか「再 発の防止」という動機です。

痛みや再発予防ということは、当然のことながら「またあの同じ痛みを繰り返したくない」 「同じ状態に戻りたくない」という意識があるかと思います。その為の予防としての"メンテナンスケア"は非常に良いことなのですが、私の目指す"メンテナンスケア"では無いわけです。

MK

ポジティブな動機による来院。

ということは、表現が間違っているかも知れ ませんが所謂「トリートメント」ではなく、ど ちらかと言えば「トレーニング」の概念に近い ものでしょうか?

AH

そうですね。近いですが、より正確に、ということになると「探求」ということになるかと 思います。

ご自身の内にある既存の感覚ではない、新しい感覚を発見してもらうことなのです。

MK

人間には既に自分自身で自分自身を規定することの出来る感覚があるけど、普通はそれを認識できてない、もしくは自分の内に見つけられないということでしょうか?

AH

そうです。私の施術ではクライアントが既に持っているはずなのに捉えられていない情報に気付いてもらうお手伝いをしているということになります。

まず、世界観つまり自己の内と外の世界を自 身の身体で、どのように捉え、感じているかの 違いによって、受け取る情報が変化するんです。

この時、出来る限り自分自身にとって最良の情報を受け取るには、当然自立した状態が必要となるのです。私がここでお話している、その自立した感覚というのは観念でもなければイメージでもなく、純粋な身体感覚、生理的実感なのです。

MK

なるほど。それが「体感」だと。

AH

ええ。先ほどお話しました通り、究極的には 意識のみで自己を規定することが可能になると 考えているのですが、それはやはりいきなりは 無理です。

ですから、まずは身体感覚からその方向に進む 方が確実であるし、間違いが少ないと考えます。

MK

自ら積極的に自立・自律しようとすることが ポジティブメンテナンスなんですね。

お体の痛み・不調 相談するなら安心の国際基準カイロプラクティック治療院へ



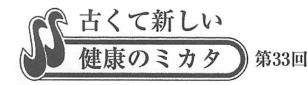
●ナチュラルケア水道橋外来センター (担当 朝倉穂高:AH)

電話番号: 03-5805-0927 文京区本郷1-4-7協和ビル5F



●ハーモニーカイロプラクティックオフィス(担当 松浦孝一郎:MK)

電話番号: 03-3221-1003 千代田区神田神保町2-19-4-1F



【前回のテーマは「ポジティブメンテナンスと自立」、今回は「人が自立しているとき」です。】 MK

前回、ポジティブメンテナンスとは自立トレーニングであるというお話でした。

AH

そうですね。でも注意しなければいけないことがあります、それは具体的手法や考え方は状況と段階に適宜合わせる必要があるということです。

例えばマニュアル車のギアありますよね?ローギアで市街地、山道、高速道路、林道、すべての路面を走れる訳ではなく、それぞれセカンド、サード・・・とギアを適宜変更して合わせる必要があります。

ローで走らなければならないところはローで、 トップ走った方が良いところはトップで走るこ とが必要です。

MK

仰る通りですね。1つの究極の考え方や方法 があって、それがすべてに適応されるような誤 解というのは昨今多いように思います。

AH

ええ。これは施術者側にも言えることです。 次にその術者が「何をゴールにしているか?」ということがポイントになります。「ク ライアントの身体に明確な変化が起こる」「痛 みが消える」というのは代表的なゴールです。

私のゴールはクライアントを「ポジティブメンテナンスに導く」ことですから、クライアントの状態と理解に合わせつつその"既知の世界観に新しい風を吹かせたい"のです。ですから、その人自身の世界に向き合えるか?という姿勢

を大切にしています。

MK

その姿勢こそ施術者の精神的背骨ですよね。

AH

その通りです。術者として大切なことはクライアントの本当の自然治癒の力を発揮させるには一方的な押し売りでは逆にクライアントの能力の発揮を阻害することにもなる場合があるということを理解した上で、クライアントをただ支えるスタンスであり続けることだと思います。

これこそ術者の術者としての精神的背骨だと 思います。

そしてクライアント自身の精神的背骨と、術者のそれとが1つになることで、クライアントをポジティブメンテナンスというゴールに導くことが可能になると考えます。

ですから、この連載でずっと言い続けている "向き合う"

これが最も大切なことなんです。なぜなら人が ある対象に向き合えた時こそ、それを支える準 備を完了しているからです。

MK

うん。だからこそ人があることに"向き合う"ところに精神的背骨が自然と現出するんですよね。

しかし【自分自身】に向き合うというのは怖 いし、難しいですね。

AH

そうです。だから、これもいきなりは出来ません。

やはり"向き合う"ということをトレーニン グする必要があるのです。

自分に向き合うことが出来る人は、他者にも きちんと向き合うことが出来るようになるんで す。

これがポジティブの本当の意味です。

これが出来た時、その人は自立しているんで す。

お体の痛み・不調 相談するなら安心の国際基準カイロプラクティック治療院へ



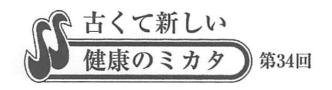
●ナチュラルケア水道橋外来センター(担当 朝倉穂高:AH)

電話番号: 03-5805-0927 文京区本郷1-4-7協和ビル5F



●ハーモニーカイロプラクティックオフィス(担当 松浦孝一郎:MK)

電話番号: 03-3221-1003 千代田区神田神保町2-19-4-1F



【前回のテーマは「人が自立しているとき」、今回は「最も身近な未知の世界」です。】

AH

前回「"向き合う"ところに自然と精神的背骨は顕れる」ということを松浦先生は仰いましたが、これは以前にこの連載で少し触れました。

つまり"向き合う"というのは、自己の重心と対象とするものの重心を一致させようとする 意志のことです。その対象は人、物、事を問わず自己以外の何かです。

ですから、"自己ではない"と認識したものと改めて1つになりたい、なろうとする意志の表れこそ"向き合う"ということに他ならないと私は考えています。

MK

第12回の「背骨と本気」ですね。

我々現代人は濁流の様な情報に日々晒されている為、その人が本当に「一になりたい」と思える機会、つまり"本気"になれるチャンスが奪われているということもその時触れました。

人が何かに関心を抱いた時、その"関心"という意識の方向性こそが精神的背骨であるということですが、今朝介先生の仰った「自分ではないと認めたものと1つになろうとする意志」これは至言であると思いますね。

AH

そうなんです。そこで"自分に向き合う"ということについてなんですが、まず前提として "自分"というものは実はたくさんの要素から 出来ているという事実があります。

MK

ですね。人間は生まれてからたくさんの情報 を無意識に学習し、また教育されます。

生まれた土地の文化、家族、友人、その時代

におけるムーブメント、それはある意味自分を 形成する自分ではありますが、同一性障害に見 られるように、それが実際に本質的自己と一致 するかというのは難しい問題です。

AH

ええ。そうです。

ここでは紙面の都合上機会を改めますが、人間は後天的学習によって得られた部分が形成する自分が、"大切に思っている事"に向かい合うことで先天的な自分つまり哲学的実体と1つの自己になろうとするのだと考えています。

MK

内省、内観ですか?

AH

具体的にはそうです。

しかし、心で心に向かうというと瞑想をしま しょうということではないのです。

瞑想というのは大変効果的ですが、向き不向 きがあります。

MK

だからこその体感。

AH

その通り!身体感覚を変化させることでそれを行うのです。

実際誰しも経験のあることでしょうけど、心を心でコントロールすることは非常に難しいのです。日常生活で「落ち着かなきゃ!」とか「イライラが止まらない…」と思ったことはあると思います。

でも、眺めの良い温泉に入っている時や、美 しい高原に佇んで涼しい風に吹かれている時、 満点の星空を眺めている時などにいきなり怒り 出す人は少ないでしょう?

人には未だ感じたこともないような快適な身体感覚、高雅な身体感覚、神聖な身体感覚というものが眠っているのです。

MK

なるほど。だから、それを発見しようとする 意志が「ポジティブメンテナンス」なんですね。

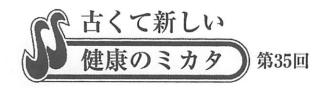


国際基準カイロプラクティック ナチュラルケア水道橋外来センター

2: 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/

● RMIT大学卒 国際基準カイロプラクター AH: 朝倉穂高 MK: 松浦孝一郎



【前回のテーマは「最も身近な未知の世界」、今回は「姿勢の本質」です。】

AH: 朝倉穂高(ナチュラルケア水道橋外来センター)

MK: 松浦孝一郎(神保町ハーモニーカイロプラクティックオフィス)

MK

未知の身体感覚を発見しようとするには、そういうものが存在するんだと、今までの自分の身体感覚とは違う感覚を体験する必要がありますね。

「あ、別の世界ってあるんだ・・・」みたいな。 AH

そうそう。

だからこそ、「体感」なんですよ。

もちろん、「じゃあそれって筋トレ?」という とそうではないんですね。感覚を育てるんです。

MK

総合的な身体能力ってことですね。

AH

そう、だから当然、いきなり今までとは全く 違う感覚を体験するのは難しいですが、「あれ?」とか「これかな?」くらいは期待出来る でしょう?

そういう"身体を感じる""感覚を掴む"と いうのはもちろんちょっとしたコツと練習が必 要になります。

MK

それが"自分に向き合う"ってこと。

AH

そうです。

つまり、最も大切なことはどれだけそれに真 剣に向き合っているかということです。

ちょっと脱線しますが、私が臨床で"みる" といった時、どこを一番見ているのか?なにを 一番大事にしているのか?というと、それは背骨?骨盤?肩・首の位置?

MK

よく「姿勢検査」というのを聞きます。大抵は 非常に単純な身体的ポジショニングによる力学的 な解説が症状と結びつけられて語られますよね。

AH

違うんです。そんなことじゃないんですよ。 一番大切なことは【態度】ですよ。その人の 【態度】をみるんです。

肩?傾いていてもいいんです。背骨?歪んでいてもいいんです。

特に臨床では、クライアントが積極的に自分 自身に向き合おうとしていること、向き合って いること、その自分というものに対する積極的 【態度】こそが最も重要なことなんです。

実はこの自身に対する積極的な【態度】こそ 真の健康の姿なんですよ。

だから、ずっと病気でないことが健康ではないと言い続けて来たんです。

『自分自身に積極的な態度を取っているか?』ここなんですよ。

MK

おおー、精神的背骨の真髄が出てきましたね。w なるほど、「精神的姿勢すなわち態度」が核心だと。

AH

そう。器質的な問題がない限り、その人の姿 勢というのは積極性の顕れですよ。

ある対象に少しでも興味があれば自分の重心 はその興味の対象に近づこうとするんです。

ほら、例えば凄く興味あることには身を乗り 出すでしょう?映画の面白いシーンやゲームで 盛り上がって来たら背もたれから離れて前のめ りになるじゃないですか?

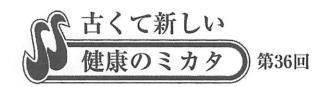
それは、興味が強ければ強いほど"対象に近づきたい"できれば"対象と1つになりたい" という意志の顕れなんです。



国際基準カイロプラクティック ナチュラルケア水道橋外来センター

窗: 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/



【前回のテーマは「姿勢の本質」、今回は「内と 外をつなぐ架け橋」です。】

AH: 朝倉穂高 (ナチュラルケア水道橋外来センター)

MK:松浦孝一郎(神保町ハーモニーカイロプラクティックオフィス)

MK

前回は、自分自身に対する関心こそが"最も 身近な未知"すなわち身体感覚を探検するため の糸口になるというお話でしたね。

AH

先生は、本当によくまとめますよね?いつも 感心、というか感動しますよ。w

MK

え?そうですか?w

これは、僕の友人の言葉なんですけど、恐らく生涯のテーマになるであろう言葉です。

それは『言語化出来ないモノを言語化する努力が大切だ』と彼は言ったんです。

AH

おおー、それはまさに至言ですよね。

MK

ええ。

ここで、いつもしているお話はとても抽象度 の高いお話ですよね。

これでも、自分達にとってはかなり抽象度を 下げているつもりなんですけど。w

でも、このそもそも言語ではないものを言語 化しようとする試みって、当たり前だけど本当 に大切ですよね。

AH

うん。間違いなくそうですよ。

これまで繰り返しお話して来たように、そも そも【健康】というのはとても抽象度の高い概 念なんですよね。

それが、抽象度が低いものとして、具体的に

語られるじゃないですか?ね「○○が健康に良い!」とか「健康になるには△△だ!」とかね。でも、僕はそうじゃないと思うんですよ。

その人の生れついた条件と現代という時代の流れ、これまで歩んできた人生の、そこで出会った、体験した、考えた、感じた、それらがすべて一つに組み合わさって、その人の世界観はあると思うんです。

だから、真の健康を目指そうとすれば、それ ら全ての関係性をみる必要がある。

MK

健康、というか開運法ですか?w

AH

wそうそう。まさにねw

【健康】も【幸福】も同じなんですよ。

繰り返しますけど、どちらも実際は非常に抽 象度の高い概念なので、一般的な「これが理想 なんだ!」という抽象度の低い概念がそれを問 題にしてしまい易くするんです。

MK

それに決着を付ける方法が、「自分に興味を 持ってください」から始まるというのは何だか 釈尊の逸話を思い出しますね。確かそんなのが あったような気が…。

AH

なんかあったよね。 w

でも、実際にそうなんですよ。

これもいきなり抽象度高く「自分の心」とかだと難しいから、具体的には「自分の体」からってことです。

MK

でも、ちょっとだけ抽象度を上げて、という か心と体の中間?

「身体感覚」ってことになるわけですか。

AH

そう!その通り。w

このことが"自分の中に確信を得る"ことに繋がるんです。

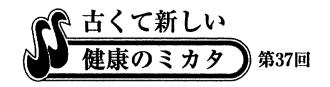
自分の内と外をつなぐ確信こそが"健康"を "健倖"にするんです。



国際基準カイロプラクティック ナチュラルケア水道橋外来センター

T: 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/



【前回のテーマは「内と外をつなぐ架け橋」、今回は「自分と自分以外の境界線」です。】

AH: 朝介穂高(ナチュラルケア水道橋外来センター) MK: 松浦孝一郎(神保町ハーモニーカイロプラクティックオフィス)

MK

前回は、「自身の内側と外側をつなぐ確信が 健康を健倖にする」というお話でしたね。

AH

ええ。この「自身の内と外をつなぐ」という ことですが、自身の内と外との境界線ってどこ だと思います?

MK

そうですね。

生命体の最小単位は細胞ですから、その内部環境と外部環境を隔てるものは細胞膜、細胞壁ですから、これが境界線でしょう。

この細胞が積層して形成されている人体だと、 もちろんその境界線は皮膚ですよね?

AH

仰る通りです。

"どこから"そして"どこまで"が【自分】なのか?これは、生命体というものを考える時に最も重要で、プリミティブなコンセプトの1つだと思います。

ところが、我々のような高等動物になると、 この境界線が不確定なものになるのです。

MK

ん~ 縄張りですか?

AH

ご名答w

そうなんです。このテリトリーという概念が 実はとても重要なんです。

MK

あ!分かった!「身体感覚」だから、ですね?あ、パーソナルスペース…

AH

流石ですね~w

そうなんですよ、身体感覚における内と外というと、一番分かり易いのがパーソナルスペースですね。

確かに物理的人体における内と外の境界線は 皮膚なんですけど、我々は意識がありますから、 この意識によって皮膚が境界線じゃなくなる場 合があるんです。

例えば、恋人同士だと皮膚を超えて更に内側に入ろうとします。むしろ積極的に皮膚を境界線にしたくないんですよね。逆に凄く嫌いな人だと、視界に入るだけで排除しようとします。この場合の境界線はその人の認識出来る距離ということになります。

MK

なるほど。確かに動物の"なわばり"と同じ ですね。

AH

わかります?つまり、積極的に1つになろうとするか、積極的に分離しようとするか、なんですよ。

MK

あ! そういえば「興味が強ければ強いほど "対象に近づきたい"できれば"対象と1つになりたい"という意志」ということを仰いましたよね! (第35回)

AH

そうそう。

戦争だって同じです。凄く雑に言うとなわば り争いでしょう?「お前は俺なのか?俺じゃな いのか?」「俺になるのか?ならないのか?」 ということです。

MK

海外だと「ファミリーか?そうじゃないか?」って、とても重要ですよね?

凄く単純な二元論ですけど。

AH

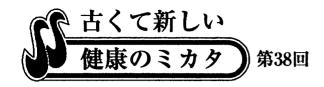
ええ。通常我々は、その主体と客体の分離した状態で世界を認識しているんですけど、その 主体と客体の境界線は流動的ってところがポイントなんですよ。



国際基準カイロプラクティック ナチュラルケア水道橋外来センター

T: 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/



【前回のテーマは「自分と自分以外の境界線」、 今回は「自己意識の大切さ」です。】

AH:朝倉穂高(ナチュラルケア水道橋外来センター)

MK:松浦孝一郎(神保町ハーモニーカイロプラクティックオフィス)

MK

前回は普通我々が世界を認識する時、主体と 客体が分離した状態で認識していて、その分離 した主体と客体の境界線が変化するというお話 でした。

AH

ええ。世界を認識する時、「自分」と「自分 以外」って我々の意識では当たり前すぎる前提 ですよね?

MK

少し前だと「自分探し」って結構聞くキーワードだったと思いますが、環境を変えることは有効ですが、「自分」を自分以外の世界に探しに行くっていうのはある意味ナンセンスですよね。

AH

うん。本当の「自分探し」というのは自己意識に向かわないと見つからないですからね。

MK

前回話題になった「自己と自己以外」というのは結構流動的ですから難しいですよね。

AH

そうなんですよね。実はその境界線の動きを 観察していると、色々なことが認識出来るよう になるんですけどね。

健康と幸福というのは人間生活において最も 大切なことだと思いますが、それを実感するの はやはり门分でしかないですから、门分をはっき りと把握するというのはとても重要なんですよ。

MK

自己という意識は固定されたものではなく、 常に変化していますから、その変化を捉えると いうことは中々…

AH

そうそう。それがポイントですよね。自分だと思っている意識というのは常に変化してるんですよ。ですから、まずは"わたしとわたしではない"ということに意識を向けるんです。

現在社会ではその最も大切なはずの「自分に 意識を向ける」こと自体、難しい方が多い様に 感じます。ですから、ぜひそういう方にこそそ の価値に気付いて欲しいですね。

MK

第35回で話題になった「自分に向き合うこと」ですね。

ん~ 確かに "自分って何か?" ということ を意識する人ってあまり居ないかもですね。い や、むしろ、興味自体が無いように感じます。

AH

第12回でも今回と同じ話をしましたが、この【Self】に究極の健康があるのだと私は考えていますからここは強調したいところです。

MK

道元の正法眼蔵の「仏道をならふというふは、 自己をならふなり。」という行名な言葉を思い 出しますね。自分というものに興味を失ってい る、というのはとても怖い感じがしますね。

AH

自己意識というのは文字通り"自己が存在している"という意識の事で、それは名前とか住所とか年齢とか趣味とかのプロフィール、つまり個人を特定するための部分集合的な情報の羅列ではないということです。

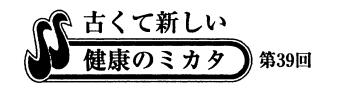
でも、どうしても、目に見えて頭で理解出来るプロフィール门体に门分という存在を求めたくなるんですよね。



国際基準カイロプラクティック ナチュラルケア水道橋外来センター

3: 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/



【前回のテーマは「自己意識の大切さ」、今回は 「2つの精神的背骨」です。】

AH:朝倉穂高(ナチュラルケア水道橋外来センター)

MK:松浦孝一郎(神保町ハーモニーカイロプラクティックオフィス)

MK

前回は改めて"自分が存在する"という意識の大切さと、それを認識することの重要性の話になりました。

第12回でも取り上げましたが"存在する" ということですね。「物理的に存在している」 ということは「質量を持っている」ということ になると思います。そして「質量がある」とい うことは「重力がある」ということになります。

AH

そうです。自己と自己ではないが存在する時、 "自己という質量"と"自己ではないという質量"が互いに引き合うということですよね。

MK

ええ。地球上では地球という惑星に引き寄せられています。直立している我々人類は自己と 地球との間にある引き合う力というベクトルを 背骨で表現しています。

AH

地球と我々は存在としては切り離されている のだから、地を這うことの方が生物としては都 合がいいはずなのに、直立であるというところ に私はとてもロマンを感じますね。

MK

どうしてです?

AH

うん。だって、まだ自立出来ないけど、親から自立したくて背伸びしている子供みたいじゃ ないですか?

MK

ああ~wなるほどね!

AH

でも、いずれ地球から自立したいという欲求 が背骨を直立させるという形で顕れているんじ ゃないかな?と。

MK

ああ〜確かにロマンティックですね。 w 人類は地球の重力に縛られながらも、実はそ の重力によって発展して来た訳ですからね。

手の自由な活用が脳を発達させられることは よく知られていますし、また、背骨を直立させ ること、そして二足歩行自体が脳の開発に重要 な役割を果たしていますからね。

AH

そうなんですよね。

"あ球 (あたま)"と"ち球 (ちきゅう)"の間に身体があるわけですが、 その"あ球"と"ち球"間の重心の支持ベクトルの中心を担っているのが背骨と足です。

つまり我々人類のすべての活動は、この地球との関係性を基盤としていると思うんですよ。

MK

カイロプラクターですね。w

AH

もちろん!w

つまり、人間には2つの根源的欲求があると 考えるわけです。天地に向かっていこうという 精神的な方向性と、大地を無限に向かっていこ うという物理的な方向性の2つがね。

MK

"鉛直方向のベクトル"と"水平方向のベクトル"ということですね。

AH

そう。言い換えると「重力を克服したい欲 求」と「重力を楽しみたい欲求」ですかね?

MK

上下の自由を獲得したいと欲求しつつ、この 水平世界の自由を欲求する。

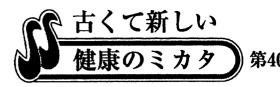
ああ~ ロマンですねえ~w



国際基準カイロプラクティック ナチュラルケア水道橋外来センター

1 : 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/



【前回のテーマは「2つの精神的背骨」、今回は 「直立(歩行)が与えてくれるもの」です。】

AH:朝倉穂高(ナチュラルケア水道橋外来センター) MK:松浦孝一郎(神保町ハーモニーカイロプラクティックオフィス)

MK

前回、人間は地球上における「鉛直方向」と「水平方向」の欲求があるのではないか?というお話でした。

AH

地上で活動する人間にとって、当然具体的に活動する対象はあくまで目前に広がる目に見える世界ですから、そこには生存の為の欲求、言い換えれば抽象度の低い、認識し易い欲求が広がっています。これを「水平方向の欲求」と表現します。

そして、それとは別に、目に見えない世界、 精神の為の欲求というか、抽象度の高い欲求を 「鉛直方向の欲求」と表現します。

MK

なるほど、水平方向の欲求というのは、マズローの欲求段階説で言うところのより低次な欲求ということで、鉛直方向の欲求というのは高次欲求ということでしょうか?

AH

あ、分かり易いですね。その通りです。

私個人はあのピラミッド型に表現された5段階の欲求全でが人間には根源的に備わっていると考えています。

MK

あ~ 人間の行動と認知、その性質の違いということで"鉛直方向"と"水平方向"の2つの方向性という風に分類されたわけですね。

AH

そうです。生命体の肉体は常にその意識を表

現しようとします。

ですから、背骨というものを観察した時に、 他の動物では進行方向・欲求の方向に対して背 骨は矢印の様に一致していてますが、人間だけ は進行方向に対して直角になるんです。これは 大変重要な自然の教えだと思いますね。

MK

確かにそうですね。他の霊長類も歩行時は進 行方向に対して背骨の長軸は一致しますが、人 間は直立二足歩行ですから、背骨の長軸に直角 です。

AH

ですよね。

ですから、人間に限っては本来一致しているはずの欲求が2つに分離してるんです。

当然、欲求は対象があってのことですから、 活動・進行方向(水平方向)に向かうはずです。 以前(第12回)ナメクジウオの話が出ましたが、 まさにあれです。

なのに、人間はその肉体が直立しているんです。これは面白い。w

MK

いや、確かに"野生生物としてのヒト"という風に見ると、確かに"へんないきもの"ですよね。w

AH

ですよね。w

で、ここで、単純に考えると、最も根源的な 欲求は背骨の長軸方向つまり地球に対しての鉛 直方向にありますから、水平方向の低次な欲求 に対しては無限とも言える多様性をもたせられ るでしょう?

う~ん。「余裕」?「暇」がある?って言えば分かり易いですかね?

MK

おお!確かに人間の"生存すること"に対する「余裕」は他の野生動物を圧倒します。

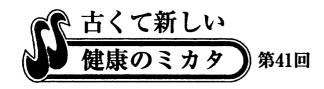
その圧倒的な「余裕」が産み出すものが「文化」とも考えられますね?なるほど…



国際基準カイロプラクティック **ナチュラルケア水道橋外来センタ**ー

12: 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/



【前回のテーマは「直立(歩行)が与えてくれる もの」、今回は「欲求の方向性の陰陽」です。】

AH:朝倉穂高(ナチュラルケア水道橋外来センター) MK:松浦孝一郎(神保町ハーモニーカイロプラクティックオフィス)

MK

前回は前々回に引き続き、"人間の背骨が直立する"という事実から、その活動の原点にある欲求の方向性が、鉛直と水平と2つの方向を持つ、というお話でした。

AH

マズローの欲求段階説のお話が出たので、低 次欲求、高次欲求と表現しましたが、ここでは 欲求の抽象度の高低を表現しています。

つまり、水平方向の欲求というのは繰り返し ますが非常に具体的、逆に鉛直方向の欲求とい うのは非常に抽象的だということです。

そして、具体的な欲求の背後には、抽象的な 欲求が隠れています。

MK

なるほど。だから、前回朝倉先生は「マズローの欲求段階説における5段階の欲求全てが人間には根源的に備わっている」と仰ったんですね。

AH

そうです。詳しくは機会を改めてお話したいですが、それぞれの段階における欲求は互いに相関していると私は考えているのです。

つまり、この"鉛直方向の欲求"と"水平方向の欲求"は互いに互いを支える力になっているんです。

MK

陰陽になってるわけですね。

AH

そうです。陰陽という理解は非常に重要ですね。 "欲求の方向性"を陰陽で捉えると、色々なこ とが分かってきます。

そうすると、人間はこの2つの"陰の欲求" "陽の欲求"が混然となった存在だと理解出来 ます。

MK

あ~なるほど。

AH

今話題にしている「鉛直方向」と「水平方向」もそれぞれ陰陽で理解が出来ます。

鉛直と水平をそのまま陰陽と理解も出来ますし、またそれぞれにも陰陽があることになりますから、鉛直方向にも「陰の鉛直方向」と「陽の鉛直方向」が、水平方向にも「陰の水平方向」と「陽の水平方向」があると考えられます。 MK

あ、そうか。

朱熹の言う「太極 ♪」から「両儀」すなわち「一陽」と「--陰」の2つの方向性が生まれて、その陰陽から「四象」が生まれる、「四象」はつまり…陰と陽の組み合わせですから「=太陽(老陽)」、「==少陰」、「==少陽」、「==太陰(老陰)」のことですか?

AH

お見事です。w

私は"鉛直方向の欲求"の場合は上下の2方向がありますが、これが「両儀(陰陽)」当たり、 "水平方向の欲求"の場合は前後、左右の4方向があり、これが「四象」に当たると考えています。

MK

なるほど。人間の根本的欲求の方向性を陰陽 で理解するわけですね。

AH

そうです。陰陽は宇宙の原理ですからね。

紙面の都合上省略しますが、もちろんこの陰 陽の組み合わせは易経にあるように更に六十四 に分類出来るんです。

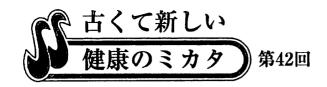
とにかく、我々に備わる欲求、その方向性、 組み合わせ、それが我々の身体と運動を、今こ の瞬間も生み出し続けているという事実が重要 なんですね。



国際基準カイロプラクティック **ナチュラルケア水道橋外来センタ**ー

窗: 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/



【前回のテーマは「欲求の方向性の陰陽」、今回は「心身の陰陽と頭寒足熱」です。】

AH: 朝倉穂高(ナチュラルケア水道橋外来センター) MK: 松浦孝一郎(神保町ハーモニーカイロプラクティックオフィス)

MK

前回は人間の欲求の方向性を陰陽の原理で解 くお話でしたね。

AH

ええ。つまり、これまで見てきた"欲求の方向性"とは、もうお気づきの辿り、以前お話した"精神のベクトル"のことです。

繰り返しになりますが、基本になるのは背骨、 即ち上下の方向性です。

身体は当然物体ですので、重力に逆らわず地面に倒れていた方が楽です。なので、下方に向かって重力から解放されようとします。

他方、精神というのは非物質なので、重力に 従わず飛翔していた方が楽です。なので、上方 に向かって重力から解放されようとします。

MK

なるほど ↑こうなっているわけですよね。 AH

そうです。人間は先天的にこの相反する二元 の方向性を持っていて、その物体と精神の性質 の違いが、人間の身体と意識の分離を引き起こ す根源的な原因だと私は考えています。

MK

心と身体の一致、つまり心身の統一こそが生命力を最大限に発揮させる鍵ですから、心と身体の分離はそれとは逆ですね。それが人間には 先天的根本的な問題としてあるわけですよね。

AH

ええ。『頭寒足熱』というのは古くから健康 上の秘訣と言われます。

これが端的に先のお話を表現しています。

上へ上へと昇ろうとする精神を足、腰、腹に

下して抑え置き、下へ下へ降りようとする身体を上げて吊り支える。

MK

うん。熱性は上昇する性質、冷性は下降する 性質ですが、なるほど、ここでは身体は軽く、 意識は重く、というわけですね。

AH

解り易い表現ですね。それに、熱性というの は体的な機能を向上させるエネルギーのクオリ ティで、逆に冷性というのは心的な機能を向上 させるクオリティなんです。

ですから、当然、頭部は涼しい方が良いし、 足部は温かい方が良いんです。

MK

熱性は動的、冷性は静的でもありますしね。 AH

その通りです。しかし、これは当然意識的に 行わないとなかなか常に「頭寒足熱」でいられ るというのは難しいです。

MK

そうですよね。

ΔH

はっきり言うと、人間はそもそもある程度努力しないと自己の本当の力は発揮できないようになっているんですね。

MK

耳が痛いですが、いや、その通りだと思います。(苦笑)

AH

私もそうですけどね。w

やはり、人間というのは日常で「本気になる 練習をしておかないと、いざという時に本気に はなれない」んですよ。

MK

ああ…ですよねえ。(苦笑)

AH

ええ。(呂笑) 火事場の馬鹿力と言われるような自己に備わる本来的な能力は、やはり、ぶっつけ本番では出せないんですよ。

MK

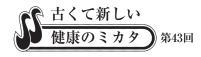
常日頃の練習、つまり習慣が必要ということ ですね。



国際基準カイロプラクティック ナチュラルケア水道橋外来センター

1 : 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/



【前回のテーマは「心身の陰陽と頭寒足熱」、今回は「問題解決の本質」です。】

AH: 朝倉穂高 (ナチュラルケア水道橋外来センター) MK: 松浦孝一郎 (神保町ハーモニーカイロプラクティックオフィス)

MK

前回、心身は上下真逆の方向性があり、そのまま放置すると分離してしまう性質があり、それを意識的に1つにすることが精神的背骨の強化、つまり生命力を最大限に発揮させる鍵であり、それは実は昔から言われている「頭寒足熱」と同じことであるというお話でした。

AΗ

そうです。最も重大な大前提ですが、現代の 我々は"自然のままのヒト"ではありません。

我々は発達した科学技術によって生活しています。科学技術の発展は我々に多くの恩恵をもたらしました。しかし、それによって失われたものもたくさんあります。

MK

汚染や公害、新しい病気、異常気象、環境破壊…

ΑН

ええ。自然は本来のあるがままの自然ではな くなっていますよね?

我々の心身は、我々に"最も近い自然"です。 これだけ自然が変化してしまった現代、我々 の心身だけ、ありのままの自然で居続けられる でしょうか?

MK

あり得ませんね。

AΗ

第37回で触れた【境界線】というのを思い出してください。我々は自身の内と外とをエネルギーや物質、情報を選択的に交換しています。 MK

ええ。

んん

ΑН

当然、現代のとても自然とは呼べない我々を 取り巻く環境から、自然ではないエネルギーや 物質、情報を取り入れて、それに適応しようと しています。ですから、何が言いたいかと言う と、今の我々の心身を放置してしまったら、そ れは自然ではないということです。

MK

ああ…なるほど。

AΗ

生命は自然そのものです。ですから、生命の 持つ力を本来の状態に戻して全力で発揮させる には、まずは自らの「心身を自然に戻すという "手を加えないといけない"」ということなん ですよ。

MK

あ!そうかぁ…。

AH

うん。そうなんですよ。この観方が無いと、自 然というものを誤解してしまうことになります。

MK

あ!今その話を聞いて、自然農法を提唱された福岡正信氏の「放任と自然は違う」という言葉を思い出しました。

AΗ

さすが。wそうなんです。これは我々が従事 する自然療法や手技療法も同じで、その「放任 と自然は違う」という観方が根本にあって、そ こから基本の検査や見立てがあるんです。

MK

そもそも「自然ではない」からスタートして、 今の自分を放任することを止め、キチンと手を 入れてあげて、自然に帰る。

AH

そう。我々の内から沸き起こる、欲望、衝動、恣意…、これらを放任することが我々の心身に 問題を起こすんです。

MK

それは自然な欲求ではないから…

AΗ

その通り。つまり、あらゆる"問題の解決方法"とは、"自然に戻す"ということなんです。



国際基準カイロプラクティック **ナチュラルケア水道橋外来センター**

☎: 03-5805-0927

http://naturalcare-chiro.jimdo.com/